

図書だより 12月号

岡本小学校 2021年12月3日発行

あつという間に12月です。すっかり冬の気候になりました。日ごとに寒くなりますが、12月は楽しいイベントがたくさんあるので、ウキウキしている人も多いのではないのでしょうか。どうぞ、よい年末年始を過ごしてください。

きせつ ほん 季節の本



『クリスマスにくつしたをさげるわけ』

間所ひさこ // 作

クリスマス・イヴの夜、くつしたをさげてねるのはどうして？サンタクロースのゆらいを知る絵本。

『クリスマスの幽霊』

ロバート・ウェストール // 作

クリスマス・イヴ。ぼくは、父さんが働いている工場へおつかいに行った。すると、エレベーターの中で、不思議なものを見た…



あんたがサンタ？



『あんたがサンタ？』

佐々木 マキ // 作

ソリからおちる、日にちをまちがえる、トナカイにこきつかわれる、おなじ家になんども行ってしまう…思わず笑ってしまうこまったサンタの事例集。

ふゆやす とくべつ か だ 冬休み特別貸し出し

12月20日(月)から24日(金)まで、冬休みの特別貸し出しを行います。4冊まで借りられます。特別貸し出しで借りた本は、1月11日(火)から14日(金)までの間に返しましょう。

こんげつ ひ 今月この日はなんの日

～ベートーベン生誕～

ねんまつ かなら なが きょく こうきょうきょくだい ばん 年末に必ず流れる曲といえば「交響曲第9番・合唱付」、その作者ベートーベンは、1770年12月16日にドイツのボンで生まれました。父からピアノの手ほどきを受け、7歳のときには演奏会を開くほどの腕前でした。

20代の終わりごろから耳の病気で聴力がおとろえていきましたが、だれもが聴いたことのある交響曲第3番「英雄」や交響曲第5番「運命」など名曲を次々に生みだしました。「第9」は、ほとんど聴力を失ってから作った曲です。

『新きょうはなんの日？』ポプラ社



しら ものし はかせ 調べて物知り博士に！

～大みそかにそばを食べるのはなぜ？～

としこ ふうしゅう え としだい はじ い 年越しそばの風習は、江戸時代から始まったと言われています。その由来は、いくつか説があります。一つは、年末に忙しい商人が、すばやく食べられるそばを好んで食べていたことが、一般に広まったという説です。もう一つは、金銀細工の職人が、一年の仕事納めのときに金銀の粉を床にこぼしてしまい、それをそばだんごにつけて集めたという話から、「そばは金を集める」と言われ、それにあやかったという説です。

また、そばは長いことから、長く生きられるようにという願いをこめた縁起物としての意味もあるそうです。

『新きょうはなんの日？』ポプラ社

『日本の年中行事 11月・12月』学研

おすすめのほん 本はこちら



『この人を見よ！歴史をつくった人びと伝 ベートーベン』

ポプラ社

